

品目	雹害対策（7月）	
水稲	期 減数分裂期） 早期栽培（幼穂形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上位葉（止葉、2葉、3葉等）の葉身に損傷を生じているものは、葉面からの蒸散作用が激しくなるので、滞水する。 ・ 穂いもちの常発地では「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の農薬使用基準に沿って防除する。 ・ 折損葉が多発している水田では、穂肥、実肥の施用量を減肥する。 ・ 高温による根腐れの発生が懸念される場合は、間断灌水（2～3日間隔）し、根群の健全化に努める。
	期 最高分けつ盛 普通期栽培（分けつ盛	<ul style="list-style-type: none"> ・ 葉身基部が折損している場合は、葉数の回復と莖数を確保するため、水管理に留意し、間断灌水（2～3日間隔）する。 ・ 葉いもちが発生しているほ地では「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の農薬使用基準に沿って防除する。
大豆	<ul style="list-style-type: none"> ・ 葉に裂傷を生じたものは、病原菌侵入のおそれがあるので、「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の農薬使用基準に沿って防除する。 ・ 倒伏したものは、速やかに起こし、土寄せする。 ・ ほ場の排水に努める。 ・ 出芽不良のものは播き直しする。 	
野菜	の 管理 雨 よけ 栽培	<ul style="list-style-type: none"> ・ 降雨により傷口から細菌類が侵入するおそれがあるため、「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の農薬使用基準に沿って防除する。 ・ 樹勢の低下が予想される場合は、液肥を葉面散布する。 ・ ビニールの損傷箇所を早急に修理する。
	栽培 管理 露地 野菜 の	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茎葉の損傷により病害虫の発生が予想される場合は、「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の農薬使用基準に沿って防除する。 ・ 樹勢の低下が予想される場合は、液肥を葉面散布する。 ・ スイートコーン、キュウリ、ナス等は蔓、茎の誘引を行い、樹勢回復に努める。 ・ 葉菜類は被害の程度、栽培ステージによっては播き直しする。
果樹	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハウスが被害を受けた場合は、早急に雨よけ対策を構じる。 ・ 傷口から病害が感染しやすいので、「主要農作物病害虫・雑草防除指針」の農薬使用基準に沿って防除する。 ・ 損傷が大きい果実は摘果する。 ・ カキでは、葉の被害状況に応じて、摘果を見直す。 ・ ブドウでは、傷ついた果粒を摘粒する。 ・ 葉の被害が大きい場合は摘房して、果実の成熟が遅れないようにする。 ・ モモでは、病害果を摘果して、園外へ除去する。 	
畜産	理 飼 料 作 物 の 栽 培 管	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飼料用トウモロコシが生育初期に雹害を受けた場合は、茎葉の被害がひどくても生長点が健全であれば、その後の回復が期待できる。 ・ しかし、全体の損傷が著しい場合は、相対熟度が100以下の極早生品種をやや密度に播種する。 ・ 収穫期が迫っている場合は、直ちに収穫してサイレージ調製を実施する。 ・ 牧草が茎だけ残した状態になっている場合は、早急に刈り取り、追肥をして再生草の成長を促す。